

## 議 会 議 案 第 4 号

### 手話言語法制定を求める意見書の提出について

地方自治法第99条の規定により、手話言語法制定を求める意見書を次のとおり提出する。

平成26年9月19日提出

新居浜市議会議員	白 旗 愛 一
新居浜市議会議員	大 石 豪
新居浜市議会議員	岩 本 和 強
新居浜市議会議員	藤 田 豊 治
新居浜市議会議員	高 橋 一 郎
新居浜市議会議員	真 木 増次郎

### 手話言語法制定を求める意見書

手話とは、日本語を音声ではなく手や指、体などの動きや顔の表情を使う独自の語彙や文法体系を持つ言語である。手話を使うろう者にとって、聞こえる人たちの音声言語と同様に、情報獲得とコミュニケーションの手段として大切に守られてきた。

しかしながら、ろう学校では手話は禁止され、社会では手話を使うことで差別されてきた長い歴史があった。

2006年12月に採択された国連の障害者権利条約には、「手話は言語」であることが明記されている。

障害者権利条約の批准に向けて日本政府は国内法の整備を進め、2011年8月に改正された障害者基本法では「全て障害者は、可能な限り、言語（手話を含む。）その他の意思疎通のための手段についての選択の機会が確保される」と定められた。

また、同法第22条では国及び地方公共団体に対して情報保障施策を義務づけており、

手話が音声言語と対等な言語であることを広く国民に広め、聞こえない子供が手話を身につけ、手話で学べ、自由に手話が使え、さらに手話を言語として普及、研究することのできる環境整備に向けた法整備を国として実現することが必要であると考えます。

よって、政府と国会においては、手話が音声言語と対等な言語であることを広く国民に広め、聞こえない子供が手話を身につけ、手話で学べ、自由に手話が使え、さらに手話を言語として普及、研究することのできる環境整備を目的とした「手話言語法(仮称)」を制定するよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成26年9月19日

新居浜市議会

衆議院議長

参議院議長

内閣総理大臣 宛

総務大臣

厚生労働大臣

内閣官房長官

提案理由

口頭説明